第２回千葉県俳句大賞決まる

千葉県俳句作家協会では、昨年から初めての試みとして「千葉県俳句大賞」を設けました。千葉県内には中央俳壇に更なる文芸の飛躍を目指し活躍をされている方が多くおられることから、句集刊行などにより特に優れた功績をあげられた方々を選考し、県民文学活動の充実発展へ向けて推進力を発揮された方を顕彰するものとして賞を設けたものであります。

昨年は俳句大賞には大串章氏の句集『海路』が、準賞には句集『獺の祭』が、奨励賞には『展翅板』がそれぞれ受賞し、千葉県俳壇のみならず全国俳壇からも注目を集めました。

応募条件を千葉県内に在住し平成27年12月１日～平成28年11月30日までに刊行した句集より審査するものとして自薦、他薦を問わず事務局宛てに該当する句集を送っていただきました。又対象者が当協会に加盟されているか否かは問わず、さらに昨年と同様現在当協会の役員を在任されている方は応募出来ないこととしました。

十九篇の句集を対象に会長、副会長、理事長が選考に当りましたが、千葉県俳句作家の質の高さ層の厚さに驚くものがありました。

以上の選考経過を経て、第二回の「千葉県俳句大賞」は左記のとおり決定いたしました。

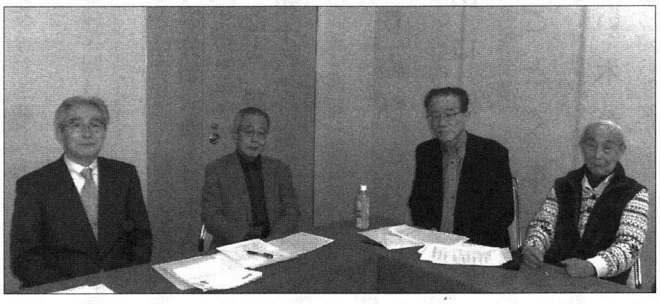
◎第二回　千葉県俳句大賞
　句集『文様』　鳴戸奈菜　（角川書店刊・二〇一六年七月刊）
◎第二回　千葉県俳句大賞　準賞
　句集『間取図』　広渡敬雄　（角川書店刊・二〇一六年六月刊）
◎第二回　千葉県俳句大賞　奨励賞
　句集『銀の笛』　栗原公子　（ふらんす堂刊・二〇一六年十一月刊）

※　贈賞式は五月二十一日、午前十一時からホテルプラザ菜の花で開催いたします。

◇

選考委員

能村研三
増成栗人
三枝かずを
塩野谷仁
秋尾敏



俳句大賞審査会

真木

第　181　号

〒261-0004
千葉市美浜区高洲
1-14-9-503
田所節子方
千葉県俳句作家協会
事　務　局
TEL 043-277-1056

〒299-1143
君津市君津台 2-8-4
石井紀美子方
「真木」編集部
TEL 0439-52-6254

目　次

第二回千葉県俳句大賞決まる ……1
大賞受賞句集 鳴戸奈菜 自選二十句 ……2
第三十一回協会賞決まる ……5
通常総会・千葉県俳句大賞及び協会賞贈賞式のご案内 ……6
協会賞受賞作品 ……7
千葉県俳壇ニュース ……9
ひろば、結社賞 ……10
会員著書紹介、新入会員一句、受贈誌より ……11
第59回千葉県俳句大会ご案内、事務局日誌 ……12

大賞

句集『文　様』

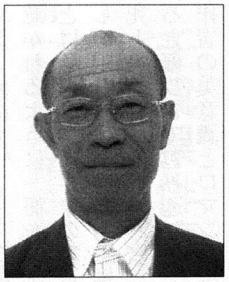
鳴戸奈菜　自選二十句

柏市在住・「らん」発行人・現代俳句協会副会長・日本文藝家協会・共立女子大学教授。句集『イヴ』『天然』『月の花』『微笑』『露景色』『永遠が咲いて』など、評論集『言葉に恋して　現代俳句を読む行為』・昭和十八年京城生れ。

春の日や地球の上を歩きおり
命得てはじまる死のこと桜かな
ゆく春の二本の川が一本に
人影の吹き飛ばされし青嵐
世を映すシャボン玉一瞬の永遠
さびしさにウスバカゲロウ解体す
夏の風椅子のかたちに身を折りぬ
茄子の花実となるはじめ茄子大変
死んだから自由にしてと黒揚羽
この星のいのちいつまで星祭り

秋風を眺めておりぬひとりひとり
入口という出口かな彼岸花
秋の暮旅ゆくごとく本屋まで
空青く一番高い木から枯れよ
人に問う人間とは秋の暮
林檎剥くナイフすずしく光らせて
百八で足りぬ鐘の音微笑みぬ
たましいを見せ合っており冬の山
ほんとの話雪の夜だけ女なの
戦争せぬための戦争ありか春は来るか

準賞



句集『間取図』

広渡敬雄　自選二十句

千葉市在住・「沖」「青垣」同人・俳人協会会員　第58回角川俳句賞受賞、句集『遠賀川』『ライカ』昭和二十六年福岡生れ。

靄生みて靄を走れり雪解川
ぶなの生む一滴の水春の鹿
呼びかけて大きくなりぬ春の山
帽子屋に帽取棒や春深し
幹軽くたたきて巣箱掛けにけり
あり余る有給休暇鳥の恋
口大きく開けて日本の燕の子
裏返りつつ沢蟹の遡る
冥王星までの時間やケルン冷ゆ
間取図に手書きの出窓夏の山
鳥籠の鳥しづかなる夏書かな
蓮舟の屋根のゆくなり蓮の中
能村登四郎白靴も細かりし
終戦の日の絶海の信天翁
淡然と悠然とふろしきは秋
息吸ふは吐くよりさびし渡り鳥
横顔は子規に如くなしラ・フランス
いつもより大きな富士や霜柱
婿となる青年と酌む年の酒
晩年の犬の歩みや冬たんぽぽ

奨励賞

句集『銀の笛』

栗原公子　自選二十句

浦安市在住・「沖」同人・俳人協会会員・千葉県俳句作家協会会員・昭和十八年東京都生れ。

涼しかり星座は花の名を持たず
月光も編みこみ烏瓜の花
万緑に染まり山彦かへり来る
冬麗やふれて分け合ふ静電気
小鳥くる明るき詩を詠へよと
銀の笛欲し全山を芽吹かせむ
自由とは涼しかりけり寂しかり
色鳥や宛名想ひて選る切手
あぢさゐが好き音たてぬ雨が好き
全力のつもり私とかたつむり
台風来すこしわくわくしてゐたり
初夏の略図川より描きはじむ
翼もつ魚に涼しき海の色
包丁に水垂直に当てて夏
鯵たたく銀の光と海の香と
水澄むや平穏無事といふ不安
淋しさの正体冬の薔薇に棘
砂時計の時は銀色クリスマス
眠りさへすれば明日くる冬の雨
誰もみな遺されしもの水澄めり

第二回千葉県俳句大賞選評

大賞選評　塩野谷　仁

鳴戸奈菜作品の特徴は、現代人の不安や不満をときにはシビアな、ときにはユーモラスな目で捉えるところにある。つまり自分の思念や情念および肉体が感じ取った世界を、軽やかに俳句に仕立てているところ、といってもいい。例えば、集中の〈蟻も吾も宇宙に生れ死ぬ予定〉のように、その思いに屈託がない。さすが永田耕衣の後継者にして、今回の句集『文様』はその結実でもある。

準賞選評　能村　研三

広渡敬雄氏の句集『間取図』は『遠賀川』『ライカ』に続く第三句集。句集名となった「間取図」で第五十八回「角川俳句賞」を受賞。氏は根っからの山男で日本の百名山のほとんどを踏破したそうだ。〈広げたる地図に雲海迫り来る〉〈間取図に手書きの出窓夏の山〉等。日常句も難しい言葉や気を衒った言い回しなどせず淡々と自分の視点で詠んでいるのが素晴しい。

奨励賞選評　増成　栗人

上梓直後、著者・栗原公子さんより送られて来た『銀の笛』。さりげなく手に取った私は、惹かれるように一冊を一気に読んだ。こんなことは殆どない。平素の暮らしから得た感動が新しい感覚で作者の物語を創り出してゆく。夫の死という現実の懊悩も哀しみも、作者は己が明るき優しさで包み込む。一冊を通して描き出す作者の美意識とロマン。推奨に値する句集と改めて思い返している。

第2回 千葉県俳句大賞選考対象句集

番号	賞	句集名	著者	刊行年月日	刊行出版社	住所	所属結社
1		ぶんぶんぶん	間部美智子	H28. 2. 2	ふらんす堂	松戸市	
2		究むべく	松山足羽	H28. 5.20	東京四季出版	佐倉市	川
3		美点凝視	池田啓三	H28. 5	角川文化振興財団	市川市	
4		琥珀	岩瀬由美子	H28. 6.29	東京四季出版	木更津市	好日
5		房総	伊奈秀典	H28. 8	ふらんす堂	市原市	いには
6		銀河の一滴	峰崎成規	H28. 9.20	鳩書房	市川市	沖
7		水陽炎	長井寛	H28.10	研究社印刷	鎌ケ谷市	遊牧
8		身の揺れ	成田美代	H11. 1	ふらんす堂	千葉市	鴫
9		青嶺	内海良太	H28.11. 3	有文社	佐倉市	万象
10		沓あと	たなか迪子	H28. 2.14	ふらんす堂	船橋市	
11		白鳥	三木星音子	H28. 2.28	喜怒哀楽書房	我孫子市	
12		風韻	大井東一路	H28.11.15	文學の森	松戸市	百鳥
13		真青	抜井諒一	H28.10.15	文學の森	市川市	
14		虹の島	前北かおる	H27.12.17	ふらんす堂	八千代市	夏潮
15		濤	小笠原眞弓	H28.11.20	本阿弥書店	千葉市	萬緑
16		菊鋏	富川明子	H27.12.23	ふらんす堂	八千代市	沖
17	準賞	間取図	広渡敬雄	H28. 6.25	角川文化振興財団	千葉市	沖・青垣
18	大賞	文様	鳴戸奈菜	H28. 7.25	角川文化振興財団	柏市	らん
19	奨励賞	銀の笛	栗原公子	H28.11.30	ふらんす堂	浦安市	沖

第31回 協会賞決まる

千葉県俳句作家協会の第31回協会賞が決定した。この賞は俳句の振興を目指し、会員の資質向上及び県民文化の振興を目的として設けられたもので協会として最も力を入れている行事の一つである。

昨年と比べて23篇とかなり応募数が少なく残念であった。作品に旅吟が多いと感じられたが、旅の連作や一つの句材にこだわらず自作のよい作品を並べた作品も望ましい。二十句纏められた、それぞれの作家の努力に敬意を表したい。言葉使いの乱暴な句や誤字が見受けられた。出句の前に充分推敲してください。

三十代四十代の若い方も奮って応募していただきたい。

協会賞　原　瞳子（我孫子市）
次　席　中山　和子（千葉市）
佳　作　岡本　秀子（千葉市）
佳　作　平野みち代（千葉市）
佳　作　浅野　吉弘（千葉市）

◇

協会賞選考過程

協会賞の最終選考会は、一月二十九日、千葉市の「ホテルプラザ菜の花」において開催された。

選考基準の確認の後、予備審査の結果と欠席委員から送られたコメントを参考に活発な意見が交わされ別表の通り決定した。（文中敬称略）

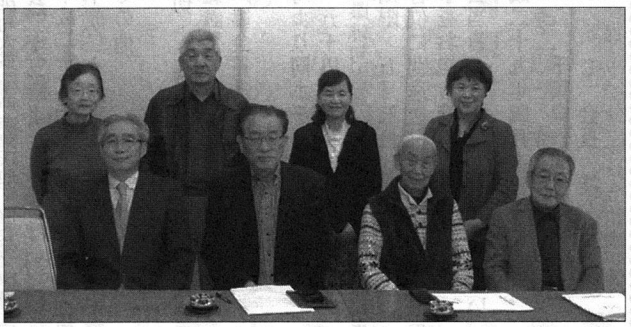
最終選考会出席者は八名（三枝かずを委員は所用のため、外丸和弘委員は体調不調のため欠席）。応募作品23篇は次の通り（到着順）、「晩夏を詠む」藤井元基、「鎮魂の忌を詠む」保坂和郷、「猫よ」金子日出子、「秋の上野界隈」山内洋光、「船旅」藤代康明、「古書祭り」脇屋よしお、「口笛」髙橋敏夫、「初蝶」原瞳子、「通りゃんせ」昼間たつお、「火の記憶」松戸圭、「単線の鉄路」坂本好子、「一張羅めきて」平野みち代、「滝白し」多胡たかし、「たらちねの」森井美惠子、「恙なきかな」八川信也、「琵琶湖の四季」大久保文夫、「死にゆく季語」東國人、「冬の旅」清野敦史、「美濃路」吉岡麻琴、「秋夕焼」岡本秀子、「菖蒲園」髙橋美智子、「龍の髭」浅野吉弘、「まんだら堂やぐら群」中山和子。

最高点は「初蝶」の24点。「まんだら堂やぐら群」が21点とそれに続いた。「秋夕焼」が17点、「一張羅めきて」が16点、「龍の髭」が12点、「火の記憶」と「単線の鉄路」が10点。以下「秋の上野界隈」9点、「滝白し」7点、「船旅」5点、「琵琶湖の四季」と「冬の旅」が3点、「古書祭り」1点で、他の作品は残念ながら無点であった。

最高点の「初蝶」については、一位に推している委員が三名、四位の委員が四名あり、評価が高い作品ではあるが、類型感がある、巧みな詠みぶりだが、今ひとつ、と言う発言もあったが、全句にまとまりがあり、旅人のまなざしも感じられる、また十

選考委員

秋尾　敏
川合憲子
三枝かずを
塩野谷　仁
染谷　卓
田所節子
外丸和弘
能村研三
増成栗人
村上喜代子



協会賞審査会

名の委員の内、八名が五位以内に推していることからも協会賞に決定。次点の「まんだら堂やぐら群」は焦点が絞れている、素材は古いが矢倉群のテーマで押したのがよかった、季題もしっかりして表現力もあると評価され次席に決まる。「秋夕焼」については、日常吟。まとまっていて好感は持てるが少しテーマが弱い、などの意見もあったが、佳作1に決定。「一張羅めきて」については、作者の顔が見える、余り無理をしない表出の中に軽い作品のロマンが息づいていると佳作2とする。次の「龍の髭」については、モチーフが平凡、よい句もあるが通念でおわっているとの意見の反面、個性的な面白さを持った作品、前向きな俳句姿勢が伺えるとの評価があり、佳作3に決まる。以下入選を逃したが、「火の記憶」については、この題名は難解、作者の心象が充分に描き切れていない、老いに迫っている、世界観も広いとの発言があった。「単線の鉄路」に対しては、旅情あり、焦点がしっかりしている、まとまってはいるがインパクト不足とされた。

（田所節子 記）

◆協会賞選考基準

①委員の半数以上が、五位以内に推薦した作品であること。

②委員の一人以上が、一位に推した作品であること。

③右の①②の条件を満たしていることを基準とするが、場合によっては①②のいずれかに該当していれば審議の対象とする。

第31回 協会賞入賞作品審査表

（応募作品　23篇）

番号	表題	成績	審査員査定順位										得点	作者名	住所	所属結社
8	初蝶	協会賞		5	2		5	5	1	2	2	2	24	原　瞳子	我孫子市	初蝶、清の會
12	一張羅めきて	佳作					4	1	4		3	4	16	平野みち代	千葉市	鴫、杜
20	秋夕焼	佳作				5		4	2	5	1		17	岡本　秀子	千葉市	沖
22	龍の髭	佳作	1					3		3	5		12	浅野　吉弘	千葉市	沖
23	まんだら堂やぐら群	次席		3	5	4				4	4	1	21	中山　和子	千葉市	初蝶、清の會
審査員（50音順）			秋尾　敏	川合　憲子	三枝かずを	塩野谷　仁	染谷　卓	田所　節子	外丸　和弘	能村　研三	増成　栗人	村上喜代子		【採点】 1位＝5点 2位＝4点 3位＝3点 4位＝2点 5位＝1点		

平成二十九年度通常総会・千葉県俳句大賞及び協会賞贈賞式のご案内

当協会の通常総会と贈賞式を左記の通り開催します。

総会に先立って十一時より第二回千葉県俳句大賞と第三十一回協会賞の贈賞式を行います。皆さまお誘い合わせの上、ご出席ください。

記

日時　五月二十一日（日）受付十時三十分より

会場　「ホテルプラザ菜の花」四階「槙」

千葉市中央区長洲一－八－一

電話〇四三（二二二）八二七一

【贈賞式】十一時より

第二回千葉県俳句大賞及び第三十一回協会賞

受賞者　俳句大賞（鳴戸奈菜氏他）・協会賞（原瞳子氏他）

【通常総会】十三時より

議題・平成二十八年度事業報告及び決算報告

・平成二十九年度事業計画及び予算他

・その他

【俳句会】

投句締切　十二時三十分・句会は総会後始めます。

当季雑詠持ち寄り二句・整理費千円

賞品／協会長賞他多数

【懇親会】

十七時より同ホテル内で行います。

会費　五千円

※千葉県俳句大賞・協会賞の祝賀を兼ねます。

申込み期限　五月五日

会員各位に別途送付の往復葉書で出欠のご返事をお知らせください。

懇親会当日の取消はご遠慮ください。

平成二十九年四月吉日

千葉県俳句作家協会

会長　能村研三

協　会　賞

原　瞳　子（我孫子市）

「初　蝶」

初蝶来合掌の手をほどく時
梅咲くや香煙絶えぬお吉寺
色褪せしお吉の駕籠や冴返る
鳶舞ふや寝姿山の笑ひ初む
料峭や砲台二つ海へ向く
囀や黒船見張所跡に佇ち
三階がホテルのロビー雛飾る
浅春の海鳴り高き夜なりけり
かげろふや黒船といふ遊覧船
日の射して春潮の秀のうすみどり
断崖に風痕の縞黄水仙
川に添ふペリーロードや春灯
なまこ壁つづく町並風光る
踏青や煙出しある異人館
春愁やお吉ケ淵といふところ
春昼の干物横丁匂ひけり
春一番艀の猫の横つ跳び
青空は大き画布なり春の鳶
惜春や唐人お吉の比翼塚
畳み皺地図にふやして町遅日

協　会　賞　次　席

中　山　和　子（千葉市）

「まんだら堂やぐら群」

色変へぬ松や朝比奈切通し
山茶花や逗子も奥なる岩殿寺
秋明菊観音様の薄まぶた
海桐の実たわわ階まだ半ば
露けしや矢倉へ潜る竹矢来
結界や露の矢倉へつんのめり
玄室の前の大石冷まじや
うそ寒や荒れ繕はれ五輪塔
見えてきし玄室の闇秋の声
遠ちこちの矢倉や落葉分かちなし
空つぽの矢倉もつとも秋日濃し
一葉落つ矢倉へ声を慎めば
秋さぶや矢倉は四角塔は丸
集合住宅めく矢倉群穂草
筒抜けの矢倉が一基黄落す
山風のはた秋風の矢倉群
秋澄んで矢倉崩れしままがよし
切岸や臭木の花を裾に置き
秋麗ら湘南クッキー販売機
草紅葉三浦へ抜ける切通し

協会賞　佳作

秋夕焼

岡本　秀子

溺れさうなる夕日の芒原
引き返すことも大事や芒原
濡れ縁に妣と仰ぎし後の月
仏花買ふ間に褪せてをり秋夕焼
雁渡るころの日射や古着市
草の実の存分に日を溜めてをり
赤とんぼ草を撓はす重さあり
鰡飛んでとんで佃の舟たまり
残照のなか細道の木守柿
秋ざくら欲を捨てたる身のかろし
労ひて連れ帰りたる案山子かな
鳥渡る潮の香つよき貯木場
籠一つ満たしてさくら紅葉かな
淋しさのたまりゆくかに木の実降る
細波の鴨いきいきと光るかな
朝まだき勤行の息誰も白し
明け方の障子明りや婚の家
山水に洗ひ白菜積み上ぐる
賽銭と落葉を膝に羅漢さま
水底の藻の長々と小春寺

協会賞　佳作

一張羅めきて

平野みち代

せせらぎを聞く秋色に染まる中
全山の晴れ渡りゐて柿日和
草虱取り合ふ知らぬ者同士
柿熟るるおとぎの里に微睡みぬ
曳き売りのよろづ屋の来て文化の日
小豆干す縁に赤子の眠りゐて
車椅子五台連ねて紅葉狩
榠樝の実凭れ合ふ時落ち着けり
朝市の嬶坐す木箱山の芋
悪相の鬼柚子を掌にもてあそぶ
登り来し旅の一寺の銀杏の実
一張羅めきて冬空真青なり
枯蟷螂終ひの力の歩みかな
小夜しぐれ肩寄せ合うて傘の中
剝製の小熊の爪や冬温し
綿虫の残照ふふむ色となり
名山と言はるる山の深眠り
嫋やかな山茶花の蕊黄金色
さよならとハザード灯す聖夜かな
闇汁に笑ひ薬を一・二滴

協会賞　佳作

龍の髭

浅野　吉弘

定年即自由となりて衣被
付鴨居の隙間に返す秋団扇
籾殻のくすぶる真中竹の筒
この穴は次男の拳障子貼る
志ん生か小さんの声か欅枯る
碁盤の足短かく太く日向ぼこ
熊撃つて捌く刃物を研ぎにけり
介護といふ一大仕事大根買ふ
一陽来復踏出す足に力こめ
篠竹の男結びの冬構
エメラルド色の銀杏茶碗蒸
ときに正座崩して書ける賀状かな
年の暮ふと足止めて時計店
ちつと寄るちつと居酒屋おでん酒
好好爺背中で演じ炬燵酒
数へ日の何か始まる厨音
辞表持ち若さで呑んだ事納
立ち上がるサーファー影なる初日の出
初日射す伊八の欄間龍の髭
故あつて寅次郎なり春を待つ

千葉県俳壇ニュース

第一四五回野田俳句連盟秋季大会

平成二十八年九月二十五日（日）に野田市興風会館に於いて第一四五回野田俳句連盟秋季大会が開かれた。出席者六十五名、欠席投句者二十二名。（前年同期比マイナス五・四％　前期比マイナス五・四％）

席題は「名月」（傍題可）。

入賞者（三句合点）代表句　○内は順位

市長賞
まだ鳥になれず夕日の鶏頭花　岡田　淑子

議長賞
地の底も良夜なるべし樹木葬　椎名　鳳人

教育長賞
名月や指一本で弾くピアノ　山村　自游

連盟賞
どんぐりなら国籍問わず生きられる　保坂　末子
⑤とさかより鶏は眠りて今日の月　倉岡　けい
⑥名月や戯画より出づる鳥けもの　藤岡　貞夫
⑦鬼瓦鬼を捨てたる今日の月　井上きよ美
⑧踏むたびに軋む敷居や月祀る　鈴木　岑夫
⑨青栗の落ちるは神の謀　中川　広子
⑩鳥渡る空家に残る車椅子　飯塚　宣子
⑪うぶ声の一報今日の月満てり　野口　京子
⑫埋もれやすきものに真実秋の草　吉田　叔子
⑬白桃はプライド剥がすところから　山口　明
⑭はじまりは受精卵から秋彼岸　伊藤　希眸
⑮無防備な名月核弾頭がある　秋尾　敏
⑯鳳仙花程よき距離に子の住まい　佐々木京子
⑰秋ともし行間も読む母の文　吉川　弘明
⑱一村の主の貌してゐる案山子　高野　春子
⑲パトカーに一村揺らぐ烏瓜　杉浦　悦子
⑳菊咲かせ娘に新しき本籍地　千葉　智司

（松澤龍一記）

第四十二回君津市民芸術祭俳句大会

日時　平成二十八年十一月二十日（日）
会場　君津市周西公民館

①ばれそうな嘘も煮込んでおでん鍋　広上　あい
②晩節のほころびを縫う夜長かな　森　孝子
③毛糸編む絡む話の外に居て　保坂ミエ子
④松手入女庭師の咥え縄　加藤　法子
⑤猪捜す鉄砲撃ちの獣の目　福川　逸美
⑥抜き足で近づく老後冬に入る　斉藤すず子
⑦水澄むや来世もこの地この人と　吉田　紅
⑧松虫をみやげの人の妻となる　野口　友子
⑨落葉して梢は星座呼びにけり　白鳥紅星子
⑩凩や野末に黒き軍馬之碑　木村　傘休

（大会事務局　西井理平　報）

第四十六回千葉市民芸術祭参加「市民春の俳句大会」

日時　平成二十九年三月五日（日）十二時から
会場　千葉市民会館三階・出席者四十五名

入賞者（○内は順位）

兼題の部（応募句三〇〇句）

千葉市長賞
篝火の煙に噎せて千葉笑ひ　鍛冶登喜夫

市議会議長賞
よく笑ふ妻と暮して十二月　高橋　由樹

千葉日報社賞
母の味いろいろあれどのっぺ汁　鶴巻　洋一

千葉市観光協会賞
浮いていることが安らぎ鴨親子　椿　良松
⑤たましいの抜けるまで干す懸け大根　椿　良松

席題の部

千葉市教育長賞
人生は何時までも夢春うらら　丸本　圭

千葉市文化連盟会長賞
笹鳴きや安房も奥なる磨崖仏　金子日出子

千葉市民俳句会会長賞
札幌の街が春呼ぶ馬車の鈴　久礼　隆志
④つじつまの合はぬ夢見る春炬燵　増田　涼
⑤缶振り鳴らすドロップ春うらら　山本ふぢな

（山﨑幸子記）

千葉県現代俳句協会新春ミニ吟行会　早春の南房総探訪

日時　平成二十九年一月二十二日（日）
会場　鋸南町立中央公民館・参加者三十名

大寒まっ只中の二十二日、鋸南町保田にてミニ吟行会を実施。水仙ロードの冬桜・紅梅白梅・猫柳・菜の花など里山の春の先取り、強風の中の漁港に飛ぶ鴎や鳶、公民館隣の菱川師宣記念館、見返り美人の像などを楽しんだ。三苫顧問出席の元、秀作・力作揃いの句会となった。

【入賞者作品】（二句のうち一句）

歩くだけ歩き水仙の奥も風　石井紀美子
山かげに花菜の小さき海がある　保坂　末子

北斎の白波くぐる冬かもめ　岡田　淑子

【特別選者特選句】

並木邑人副会長特選

水仙路ふいとアリラン歌いだし　田沼美智子

檜垣梧樓副会長特選

房総に雄藩なくて水仙花　越野　雄治

三苫知夫顧問特選

北斎の白波くぐる冬かもめ　岡田　淑子

【その他作品】（二句のうち一句、受付順）

波めくる風の荒さも春隣　星野　一惠

寒晴れの港角切りの海鮮丼　池田　博臣

初旅の気分小学一年生　増田　豊子

潮の香は無限水仙揺れ出づ　山﨑　幸子

一陣の風一山の水仙花　長濵　聰子

水仙のうしろに羅漢前に富士　並木　邑人

刃のごと折れし水仙等亡し　三苫　知夫

見え隠れする女の意地や野水仙　保坂ミエ子

風折れの水仙内耳に櫂の音　加藤　法子

水仙の野卑海抜二メートル　檜垣　梧樓

（徳吉洋二郎記）

「TEA TIME」誌 十周年記念特集号発行

保坂ミエ子、長濵聰子両氏を中心に、元教師女性八名にて発足した「ふさの会俳句サークル」は平成二十八年を以て十周年を迎え、「TEA TIME」第十集を十周年記念特集号として発行した。

代表を交代で務め、二十八年度は長濵氏が代表者となり「序にかえて」を執筆。会員十二名の自選二十六句とエッセイを掲載。稲葉洋子氏の素敵な写真が表紙を飾り、十年間の吟行地の写真を編纂するなど、小冊子であるが充実の記念号になっている。

（「TEA TIME」十集より）

●── 結社賞 ──●

第23回鳳声賞・百鳥賞

鳳声賞　不破秀介・阿部いく子

星月夜昇天中の人あまた　秀介

数へ日の童話の中に子と寝落つ　いく子

百鳥賞　西口麻里

短日の湖の光を浴びにゆく　麻里

第1回帆翔賞

帆翔賞　遠藤千波

明易し終はらぬドストエフスキー　千波

準賞　望月清彦

中空に風あり草矢ひつさらふ　清彦

佳作　酒井康正・迫田由美子・村田美穂子・渡辺正子

（「百鳥」一・二月号より）

いには同人賞・いには賞

いには同人賞（第七回）　西澤照雄・山﨑照三

目に見えぬものが大切初筑波　照雄

詩に痩せて春に背いてゐたりけり　照三

いには賞（第十一回）　藤枝昌文

缶蹴りの缶残る路地一葉忌　昌文

（「いには」二月号より）

ひろば

県内俳句協会・俳句連盟紹介

いすみ市「俳句会」現状

二〇一五年十二月五日、平成の大合併で夷隅町、大原町、岬町が合併し「いすみ市」となりました。その為、旧三町にあった俳句会はそれぞれ継続され、市内には、市の施設を利用している俳句会は現在四句会あり、稀には交流吟行句会を行っている句会もあります。

『いすみ俳句会』昭和五十三年、「幸野」の主宰者、関梅香により「夷隅公民館俳句会教室」として発足。現在は互選の句会として月一回（第三金曜日午後）実施、現在会員数十名。

『大原俳句会』昭和五十五年大原町内の俳句愛好者が大原公民館に集い発足、毎月第二日曜日九時～十四時に互選の句会を実施、現在会員数十二名。会員の中には他の結社在籍者も居る。

『音羽俳句会』大正年間「音羽山清水寺（第三十二番札所）」に近隣の俳句愛好者が集って始まり、現在は岬町公民館で月一回（第四木曜日九時～十五時）互選の句会として実施、会員数十二名。会員の中には他の結社在籍者も居る。

『岬俳句会』平成二十年四月、当時の音羽俳句会会長佐藤信顕氏等により「初心者育成教室」として誕生、現在は互選の句会として月一回（第三木曜日午前中）実施、会員数十一名。

各句会とも各公民館等に短冊を展示している。又、なお一層の交流の気運が芽生えている。

（いすみ俳句会　近藤　遼記）

第二十八年度　鳴賞・新人賞

鳴　賞　宇都宮敦子・山本無蓋

唐黍の林立に雲流れけり　敦子
蓬莱や銀河の端に生かさるる　無蓋

新人賞　山本久江・藤沢秀永

玉葱の小さき地球吊しをり　久江
漱石の恋に始まる夏期講座　秀永

（「鳴」一・二月号より）

平成二十九年度夏日特別作品入賞（一席～七席）

柿日和錆の匂ひのする手摺　古在　路子
膝抱いて話す身の上夜の涼し　渡辺　紀子
初嵐噂話の足速し　築　幸枝
滴りは地球の涙なりしかな　梁原　善子
汐の香の押し寄せてきし宵祭　鈴木　るる
白砂の参道海へ秋澄めり　畑　由子
結論から言へと言はるるとろろ汁　河野　悦子

（「夏日」三二〇号より）

平成二十九年度響焔最優秀作家賞

火炎賞　該当者なし

白灯賞　笹尾京子・松村五月

さびしさの白集まって梅の花　京子
青空はコスモスのため明日のため　五月

（「響焔」四月号より）

平成二十八年度新暦各賞

新暦賞・新人賞　該当者なし

新暦功労賞　田中春江

（「新暦」三七九号より）

会員著書紹介

●句集『旅鞄』　石橋みち子　著

「万緑」同人、当協会理事を務める著者の第一句集。岐阜県生まれ、千葉市在住。平成八年から二十八年の三四八句を収載。万緑入会後、第四代選者成田千空に十年、その後、奈良文夫・横澤放川氏に師事。序文を横澤氏が三師の選評（万緑より抜）を付し執筆。初心からの作品の完成度、発想の清新さ、実相に観入した写生力を称賛している。

「万緑」新人賞・万緑賞受賞・俳人協会会員。

子安講は笑ってばかり蓬餅
うら若き杉に鉈傷涅槃西風
土用波沖の広さで押して来る
雀へと卸す仏飯小六月

（平成29年2月発行・文學の森）

掌編自分史作品集

●『望郷・郷愁ノスタルジー』　かすがい市民文化財団　編

愛知県春日井市が「望郷・郷愁ノスタルジー～今のわたしあの日の古里～」をテーマに全国から募集した自分史、応募数一四七篇の内、入賞作品四十一篇を収載した作品集である。

そのうちの一篇「蘇った古里」と題した小野正之氏の作品が収録されている。テーマを変えて募集をしている自分史は今年で十四回を迎えるが、小野氏は昨年に続く入選である。大学を期に、古里を捨てたと述べる氏が、古里への想いを強くし望郷の念を募らせていく自分史に共感を呼ぶ。

当協会理事、「悠」同人、著書『鉄の時代を生きて』。

（平成29年2月発行・かすがい市民文化財団）

新入会員一句

托鉢の草鞋にのびる冬日かな　渡辺　鰹
蝋梅や仏間の会話弾ませり　森　寛子
木の根明くざぶざぶ使ふ水の音　越野　雄治
沈丁花語らぬという自己主張　佐伯　米子
間取図に手書きの出窓夏の山　広渡　敬雄

受贈誌より

あびこ（三二九号）

白鳥の明るき沼を曳いて来し　染谷　卓

いには（四月号）

楊枝にも頭ありけり亀鳴けり　村上喜代子

浮巣（四月号）

潮錆びの磐座の注連寒椿　大木さつき

沖（四月号）

けふ雨水気づきてよりの二度寝かな　能村　研三

音信（四月号）

夕星の忘れ形見か龍の玉　白鳥紅星子

かずさホトトギス（五七四号）

切り口はまだ新しき春の榾　三枝かずを

響焔（四月号）

吉野いまほのぐらき空西行忌　山崎　聰

草の実（三月号）

いくたびも胸ふくらませ春の雪　逸見　真三

原人（四月号）

いつか来る死といふ別れ鳥曇　三枝　青雲

玄濤（三十一号）

二、三本離れてあとは花薄　森　章

源流（三三八号）

炬燵にてひと日を捨ててしまひけり　小出　治重

鴻（四月号）
波駈けよバレンタインの日の沖へ　増成　栗人

好日（四月号）
薄氷を踏んで余罪を加へたる　長峰　竹芳

雑草（三月号）
和の心かな一月の空の無地　実籾　繁

鴫（四月号）
朝寝せりわたしを初期化するために　髙橋　道子

軸（四月号）
締切は一時ガラスの靴の雛　秋尾　敏

新暦（三七九号）
きぬぎぬの春はあけぼの和紙人形　中路　素童

獺祭（四月号）
少女らも秘密基地もつ花菫　本田　攝子

夏日（三二二号）
春浅し書きては捨つる言の葉よ　望月　百代

野火（四月号）
春泥や山羊の子どもが飛び跳ねて　菅野　孝夫

初蝶（四月号）
白息や嘘には色があると言ふ　中山　和子

半島（四月号）
北風のドン北風が追いまわす　武田　和郎

万象（四月号）
沼の色固し寒波の昨日今日　内海　良太

百鳥（四月号）
ふらここを激しく第二反抗期　大串　章

悠（二月号）
新鮮な風新鮮なばらの色　水見　壽男

遊牧（一〇八号）
家出するなら桃の日の午後三時　塩野谷　仁

ろんど（四月号）
白鳥の永久の白なれ宮の濠　すずき巴里

第59回 千葉県俳句大会 ご案内

○ 作品募集について

募集作品　**一般の部**
雑詠　2句1組（投句作品は、自作で未発表のものに限ります。
投句は何組でも可で、組単位に採点、授賞致します）

応募資格　千葉県内を俳句の活動拠点とされている方。

締　　切　**平成29年7月31日（月）（当日消印有効）**

出 句 料　一組　1,000円　投稿に添付（なるべく定額小為替でお願いします）

送 付 先　〒276-0046　八千代市大和田新田124－7　門谷 杜人 方
千葉県俳句大会・一般の部事務局　（電話 047－450－7253）

招待選者　鳴戸　奈菜（俳誌「らん」発行人・現代俳句協会副会長）

募集作品　**ジュニアの部**
雑詠　1句（投句作品は、自作で未発表のものに限ります）

応募資格　千葉県の小・中学校に在籍の児童・生徒

出 句 料　無　料

送 付 先　〒270-0157　流山市平和台 2－10－14　小野 正之 方
千葉県俳句大会・ジュニアの部事務局　（電話 04－7159－5503）

★会員各位
本号に会費納入の振込用紙を同封しましたのでお早めの納入をお願いします。
（年会費は前納です。会費納入状況のお知らせは次号の「真木」に同封いたします）

事務局日誌

◆第五回理事会（出席者二十二名）
日時　1月29日（日）15時から17時
会場　千葉市「ホテルプラザ菜の花」
議事　1　第二回千葉県俳句大賞について
2　第三十一回協会賞について
3　千葉県俳句大会について
4　協会設立45周年記念大会について
5　会報「真木」一八〇・一八一号について
6　秋季吟行会について
7　その他、事務局報告

会員異動
新会員
森　寛子（佐倉市）　渡辺　鰹（佐倉市）
越野　雄治（四街道市）　佐伯　米子（野田市）
広渡　敬雄（千葉市）

謹　計
数合信也　篠崎　青童
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

・五月二十一日に通常総会・俳句大賞及び協会賞の贈賞式を開催します。今号六頁のご案内を参照のうえ、多数の方々のご出席をお待ちしております。
・県俳句大会のご案内と会費納入の振込用紙を同封致しました。ご協力お願い申し上げます。（紀）